

金剛寶戒寺便

<https://www.houkai-ji.jp>

令和七年九月一日発行 第二三八号

檀信徒の皆さま、残暑お見舞い申し上げます。

時候の挨拶「残暑お見舞い」は、二十四節気の立秋（八月七日頃）から処暑（八月二十三日頃）までが目安だそうです。遅くとも白露（九月七日頃）までとされます。

処暑は「夏の暑さがおさまる、とどまる」、白露は「草木に降りた露が白く輝いて見える季節」を意味します。もともと、実際は「処暑とは名ばかりで猛暑が続いております」となるかもしれません。それでも早朝には、少しずつ季節の移り変わりを感じられるようになってきました。

暑中見舞いやお中元は、お盆に里帰りをする際にお世話になったご家庭のご祖先へのご挨拶のために奉げる品が由来だと聞いたことがあります。各家庭では先祖を迎え、盆供養を行い、お世話になった方にはお供えの品を持参する。そこには日本人が大切にしてきた信仰の姿が表れています。

今年のお盆参りには、宇佐市・法照寺住職の光本卓法さんにも助法をお願いしました。

彼とは高野山・専修学院で修行を共にした同期で、かれこれ三十年來のお付き合いになります。修行場に知り合いがない中、同郷であったこともあり、最年少だった彼のことは

はすぐに覚えました。今では互いに年を重ね、昔話に花を咲かせながらお盆の食事を共にいたしました。

また、お盆には納骨堂と樹木葬の合同供養も行いました。早朝六時半という時間にもかかわらず三十名以上の参列をいただきました。建立から八年。最初の合同供養には七名ほどしかおられませんでした。いつか本堂で多くの方と供養したいと願い続け、ついに念願が叶いました。心より感謝申し上げます。

また、八月二十一日には「供養盆踊り」を開催しました。コロナ禍明け二年目の今年は二百名以上の方にお越しいただきました。最後の抽選くじでは子どもたちが飛び跳ねて喜び、その笑顔に夏の疲れも癒されました。

良く聞かれる質問ですが、初盆は昨年六月末から今年のお盆までに四十九日を迎えられる方々になります。一年を振り返り、亡き方の言葉や優しさを思い出すと涙がこぼれそうになります。そして、そのご家族との新たなご縁を深めさせていただいています。まさに「諸行無常」を実感する中、盆明けに山鹿の親戚のお寺・金剛乗寺の住職がご遷化されたとの知らせが届きました。

金剛乗寺は、玄関にジャズが流れ、住職がバイクに乗り、家族旅行もするという、私の固定観念には無い、自由で温かな雰囲気のお寺でした。昨年、先代住職の十三回忌でお会

いした際もバイクで来られており、もつとお話をしてあげばよかったと今は悔やまれます。

また、金剛乗寺の住職とは血縁でもありませんが、それ以上に「法類」として深く結ばれています。仏教で「法」とはお釈迦さまの教えを意味し、血のつながりではなく、仏法を通じた親類同士のような関係です。法類は本山にも登録され、住職申請や寺院の支援において大切な役割を担います。副住職さんはまだ三十代。私が住職となった頃と重なり、「陰ながら応援します」とお誓いして葬儀に参列いたしました。

十月十三日（月曜日）十四時から

法話の会

十月十八日（土曜日）十四時から

写経の会 会費千円

○会場はいずれも金剛宝戒寺 檀信徒会館
※法話の会は通常と日にちが異なりますのでお気を付けください。

編集後記。当山は二年後には創建千三百年となります。それに先立ち宇佐神宮では今年、創建千三百年をお迎えいたします。これを祝し、大分支所では特別伝道にて宇佐神宮と天台宗と共に平和を祈念する法要を行うこととなりました。真言、天台ともに宗務総長をお迎えし十一月三十日に法要を行います。

当山からも拝観のバスを出す予定にしております。ご希望の方はお声かけ下さい。合掌